

六甲山の災害展について (その五) 六甲治山事務所

昭和四十二年豪雨災害(昭和42年7月5日~9日)

昭和四十二年七月九日、台風7号は九州で温帯低気圧となり近畿を通過、梅雨前線を近畿まで押し上げ、続いて北上してきた台風8号が前線を刺激して阪神地域は大雨となった。
神戸海洋気象台の観測では24時間雨量が31.9・4mm、1時間に75mmという記録的な集中豪雨であった。
六甲山系では2,54.9箇所(約2.5km)の山くずれが発生し、崩壊面積は22.5ha、土石、立木が市街地に流出し、河川を氾濫させた。神戸市中央区市ヶ原では山津波が集落を襲い、一瞬のうちに21人が生き埋めとなったほか、広い区域で住宅地が被災し、死者は92人に及んだ。写真は災害当時の六甲山系南斜面で、至る所で無惨な崩壊跡がみられる。

